



2007年11月25日

いま起きつつあること…

高橋哲哉さんの
平和講演会から

私たちの国は
どこに向かって
いるのか ①

神学社会委員会では、10月13日、高橋哲哉先生を講師としてお招きして平和講演会を開催しました。高橋先生は東京大学大学院教授で、哲学者として政治・社会・歴史に諸問題を研究し、人々の痛みに立つて積極的に発言をされている方です。

戦争に
向かっている日本

沖縄戦・集団自決の
教科書記述の
削除問題

沖縄戦の「集団自決」への
日本軍の強制などの記述が修
正・削除された問題で、9月

テーマに、冒頭から「戦争に向かっている」と、はつきり話されました。政府が、「国のために命を捧げることを尊い」とすらの思想を今なお浸透させようとしている」と、それと同時に、戦時中の日本軍に対するイメージを悪くするような教科書の記述を削除するため、なりふりかまわぬ腐心している様を指摘されました。

「命」そのものを、国家のものとする、あるいは天皇のものとする教育から日本が戦争に向かつたのであり、そのような教育が今なお繰り返されつつあるということを、さまざまな資料をもつて論証されました。

日本軍の命令・関与により起こつた集団自決という悲惨を極める出来事は、今なお生きしい記憶として沖縄の方々の心に刻まれています。今の時代に、なぜこれほど執拗に歴史を歪曲することが必要なのでしょうか。



同じ過ちを再び繰り返さないために、歴史の真実を追い続けなければならないことを高橋先生のお話から深く学ぶことができました。

29日、沖縄では11万人の方々が集まり県民集会が行われ、県民の怒りが頂点に達しました。

戦争の悲劇を繰り返さないために、今、私たちは、この沖縄の方々の証言に対して、責任をもつて向き合わなければなりません。教科書の改ざんは、現在起こっていることなのです。それは沖縄の方々に書き換えられたことは、集団自決によって『殉死』といいう意味合いを残し、軍の関与を否定するのに目的がある」と指摘されました。

日本軍の命令・関与により起こつた集団自決という悲惨を極める出来事は、今なお生きしい記憶として沖縄の方々の心に刻まれています。今の時代に、なぜこれほど執拗に歴史を歪曲することが必要なのでしょうか。

日本軍の命令・関与により起こつた集団自決という悲惨を極める出来事は、今なお生きしい記憶として沖縄の方々の心に刻まれています。今の時代に、なぜこれほど執拗に歴史を歪曲することが必要なのでしょうか。